

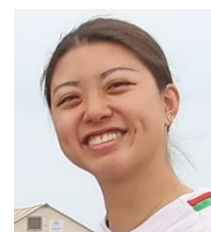
小さな女の子にとっての大きな一歩

アフリカのジブチ共和国にあるマルカジ難民キャンプには、約 1,300 人のイエメン難民の方々を海を渡って避難生活を送っています。ここで、アイキャンは 2015 年より、紛争の影響を受けた子どもたちが安心して、安全に過ごせる憩いの場として「子どもの広場」を運営してきました。毎週、平日 5 日間、イエメン難民の若者ボランティアが中心となり、スポーツやお絵かき等の様々な活動を通して、紛争で傷ついた子どもたちの心のケアを行うと同時に、子どもたちの学びの場を提供しています。

「子どもの広場」の活動に参加している子どもたちの中に、小学生低学年のファティマちゃんがあります。彼女は、極度の恥ずかしがり屋で、彼女にとって、知らない人々が集まる難民キャンプでの活動に参加することは、とても勇気のいることでした。そのため、ファティマちゃんは、常にお父さんにつれられて活動に来て、周りの子どもたちから「一緒に遊ぼう」と呼びかけられても、一緒に遊ぼうとはしませんでした。常に一人で遊び、お父さんのそばから離れることは、ありませんでした。そのような中、ボランティアや、同世代の子どもたちは、根気強く、ファティマちゃんに声をかけ続けてきました。

この日は、小さな女の子にとって、大きな一歩を踏み出した日となりました。いつものように子どもたちは、ボランティアのお兄さん・お姉さんから用紙と色鉛筆を受け取り、友達と話しながら塗り絵をはじめました。そして、ファティマちゃんも、いつものように一人で絵を描き始めました。他の子どもたちが、「ファティマ！こっちにおいでよ！」とファティマちゃんを呼ぶと、彼女は、笑顔になり、他の子どもたちのところへ寄って行き、一緒に塗り絵をはじめました。そして、この日を境に、彼女は、お父さんが呼びに来るまで、友達たちと遊ぶようになりました。

彼女がなぜこの日、あれだけ楽しそうに友達の輪に入っていたかは分かりません。紛争で故郷を追われた子どもたちは、目の前で繰り返されてきた辛い経験に加え、難民となり住処を追われることで、昔からの友達と遊ぶ機会を奪われ、自分の本当の気持ちを表現する機会も限られています。「子どもの広場」で、同じような境遇にある難民の若者や子どもたちが、ファティマちゃんに声をかけ続けたように、ファティマちゃんにも、他の難民の子どもたちの心に潤いを齎す存在になって欲しいと思います。



ICAN ジブチ事務所
宇佐美里子 (うさみさとこ)
～プロフィール～
鹿児島大学教育学部卒業後、青年海外協力隊としてセネガルに 2 年間派遣。2017 年 1 月より現職。

Project Site



認定 NPO 法人アイキャン

〒460-0011 愛知県名古屋市中区大須 3-5-4 矢場町パークビル 9 階 TEL/FAX : 052-253-7299 メール: info@ican.or.jp

ホームページ <http://www.ican.or.jp> フェイスブック <https://www.facebook.com/ICAN.NGO>

Close up

I. 危機的状況にある子どもたちと「ともに」行う活動

全6事業の中から、今回はこちらの2つをご紹介します。

①紛争の影響を受けた子どもたち 12月4-7日/コタバト(フィリピン) 「平和の伝達と普及」について研修



26名のMILF(フィリピンの旧反政府武装組織)メンバーが、地域レベルに平和を根付かせるため、平和について伝達・普及していくための活動計画を策定しました。

参加者の一人ザハボディンさん(男性、56歳)は「バン

サモロ基本法(ミンダナオ島のムスリムに自治権を与える法)は解釈が難解で、情報共有もはっきりなされておらず、意義を分かっていない人も多い。策定した計画をもとに普及活動を行い、平和のための基礎を築いていきたい。」と語りました。

②紛争の影響を受けた子どもたち 12月/イエメン 食糧提供へ向け準備着々と



イエメンの中でも激しい紛争が続く北部のハッジヤ州において、国内避難民等1,740世帯への食糧提供を行なうために準備を進めました。

これまでは、提携団体が食糧を購入し、提供を行っていましたが、今回から食糧の購入から、

アイキャンが行うため、イエメン人スタッフが業者を回って見積りを取ったり、費用を日本からジブチ経由でイエメンへ銀行送金したり、購入する食品の質をチェックしたりしました。提供は1月に実施します。

II. できること (ICAN) を増やす活動

全7事業の中から、今回はこちらの2つをご紹介します。

国際理解教育事業 12月15日/愛知 小学生に、同世代の難民の子どもたちについて伝える



津島市立北小学校での講演で、6年生37名に対し、ジブチの難民キャンプにおいて、アイキャンが運営している「子どもの広場」の活動等について伝えました。

「自分の国を離れて避難しなければいけないイエメン

難民の人たちの置かれている厳しい状況に驚いたが、アイキャンの子ども広場で遊ぶ子どもが笑顔だったのが嬉しい。」等の感想がありました。

MY アイキャン事業 12月9日/愛知 2017年、最後の街頭募金

2017年、最後の街頭募金は、ボランティア初参加の3名を含む12名で実施しました。道行く人に大きな声で呼びかけ、用意したチラシを全て配布することができ、多くの方に、フィリピンの路上の子どもたちや、アイキャンの活動を知っていただくことができました。参加者からは、「小さな子どもも募金してくれたことが嬉しかった。」と感謝の声がありました。



今月の Topic



スマイル語学教室のクリスマス会を実施しました!

12月23日/愛知

アイキャン日本事務局にて、スマイル語学教室のクリスマス会を開催し、生徒や先生、ボランティア計24名が参加しました。英語での自己紹介やゲームを通して、クラスの違いを越えて交流を深めることができました。現在も、受講者募集中です!お気軽に smile_ticket@ican.or.jp までお問い合わせ下さい!

今月の ICAN 名人

◎佐藤さん、つながりを感じながら日々応援して下さい、ありがとうございます!

マンスリーパートナー 佐藤良明さん 「私とフィリピンとのつながり」

インタビュー:11月29日

私が勤務する名古屋国際中学校・高等学校では、アイキャンの協力のもとフィリピンでの国際理解研修を実施しています。私も2015年と2016年に生徒を引率しました。この研修で出会った路上の子ども達の思いやりが、とても印象的でした。彼らと目一杯身体を動かして、とてもお腹を空かせてお昼を迎えた際に、私は出された食事を全て平らげましたが、横に座っていた少年は半分程しか食べませんでした。

「口に合わないのか」と彼に訊ねると、「残りは家に持ち帰り、家族に分けるんだ」と言いました。自分もお腹いっぱい食べられていないのに、そんな中でも家族を気遣う彼の姿勢にガツンと頭を殴られたような大きな衝撃を受けました。彼らの屈託のない笑顔とその笑顔からは想像もできない彼らを取り巻く環境・問題は帰国した後もずっと私の頭の中でぐるぐる回っていました。

帰国後に自分ができるフィリピンの子達との関わり方を模索し、マンスリーパートナーになりました。誕生日の時に届く現地の子どもの達やお母さん方からのプレゼントから、私とフィリピンの人達がつながっていると実感することができます。そして、彼らも毎日を頑張っているのだから、私も日本で頑張ろうと思えるのです。今後もマンスリーパートナーを継続していき、自分なりの形でフィリピンと繋がりを続けながら、またいつか現地に足を運び、彼らに会えることを夢見て生活していきたいと思えます。



【編集者から一言】 佐藤さんのように、フィリピンの子どもたちに会いにきてください!春のスタディーツアー参加者募集中です!